



2頭立てでもちゃんと口取りをやることもある。



全レース2頭立て
・100m戦のハイアリア競馬場。



カジノの壁にはりつくような
ポンパノパーク競馬場のスタンド。

世界旅打ち気分

●第13回・フロリダの競馬場続報

須田鷹雄

写真のカラー版は
<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>
の
#グリーンファーム会報#2019年3月号
でご覧いただけます

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

た話。先ごろ筆者は訪問してきたが、その後いろいろあつて、いまのハイアリア競馬場はえらいことになっている。
まず、ネット上に出馬表も成績も無い。開催日程だけは競馬場公式サイトに載っているが、それ以上の情報が無い。

介したハイアリアパーク競馬場について触れておきたい。繰り返しになりますがこの競馬場はその昔、サファレッドの主要場として機能しており、フフミンゴなどの主要競走も行われていた。ちなみにフフミンゴは競馬場内馬場の池に住んでおり（これは今でもいる）、競馬場の名物となっている。

しかし経営難から2001年を最後に休催となり、数年後には競馬開催の免許も切れてしまった。しかし競馬場を運営すればカジノを併設できるようになつたことで、競馬場を再び機能させることに。といつてもサファレッドの競馬を復活させるのではなく、先述したように東部では異例のクオーター馬の競馬場として復活したのである。

その後フロリダを訪れる機会があり、現状について情報をアップデートしてきたので、今回は「現在のフロリダについて」紹介しようと思ふ。まずは競馬と関係ないところでは、ドッグレースだが、2020年いっぱいでの廃止が州単位で決まってしまった。動物愛護団体が主導した住民投票の結果である。これを受けて早めに店じまいするドッグレース場もあらわれた。ただ、仮にこの住民投票が無かつたとしても多くの住民投票が無かつたとしても、ツグレースの売り上げや本場入場者は減少しており、どのみち時間の問題だったようにも思える。競馬も後を追う」とのないようにしていものだ。

番競馬情報サイトにはサラブレッドだけでなくクオーターホースの出馬表・結果も掲載されているが、そこにも収録されていない。2016年までは普通のレースが行なわれていたようで成績なども参考できるのだが、17年以降の記録が見つからない。といつても廃止になってしまったわけではなく、競馬場サイトに日程は載っている。「これはどういうことなのか?」と訝しく思っていたが、現場に行つて謎は解けた。

一方ハーネスレースだが、以前紹介したポンバノ競馬場はグランドスタンドを閉鎖してしまった。もともとこゝは競馬のスタンドとカジノの建物に分かれていたのだが、カジノ建屋の壁に沿つてやぐらのようなスタンドを作り、そこに馬券発売機を設置するとともにカジノの2階にサイマルコーナー（全米の馬券が買える）を設けて、そこには一定の賑わいを見せている。

もともとのグラウンドスタンドが巨大な廢墟になつてゐる様子はなんとも寂しいものだが、競馬側が閑散カジノ側が大賑わいとなつてゐるのはさうに競馬の斜陽を印象付けるので、両者をミックスしてしまつたのはひょっとすると良策なの

も勝負服も着ておらず、全員ジーパンで騎乗している。馬券はといふと、一応存在はしている。ただ、ハイアリア競馬場でしか購入できず、しかもなにしろ頭立てなので全く売れていない。まともな競馬をやっていた16年には1シリーズ200万ドル売り上げていたそうだが、いまでは数千ドル（2ヶ月開催して…）しか売れていない。事実上存在していないような馬券だし、そもそもレースを見ているのは出走馬関係者（クオーターホース飼養愛好家）だけしかない。

このハイアリア競馬場のスタンドは1930年代に建てられたもので、コース側はリフォームされているがスタンド裏手は当時の優雅な雰囲気を残している。映画「レッツイットライド」の舞台にもなった競馬場もある。

ただそんな優雅な姿も、「カジノのための本籍地」だけになってしまつたまどなつてはむしろ悲しい。競馬場側も現状についてやましいところがあるのか、ちょっと写真を撮っているだけでも警備員に咎められるなど、ピリピリした様子であった。

か設定し、最低ブール金額を競馬場が拠出するなどしているのだが、重勝式が通常賭式を食うてしまっている面もあるようで、なかなか売り上げ増とはいかないようだ。

アメリカはサラブレッドの競走が全土に広がっている一方、クオーターホースは西部、ハーネスレースは東部で主に行なわれおり、北部が寒い冬には一部の馬がフロリダに来ないわけにもいかない。そこでボンバノも「ハーネス冬の首都」を謳つており出走頭数が不足する」とはないのだろうが、それを養うだけの売り上げが維持できるのかはちよと心配だ。

そしてもう1場、1年前に「紹

いまから約1年前、この連載の第2回でフロリダの競馬場を取り上げた。

ペガサスワールドカップが行なわれるガルフストリーム競馬場を含めて何場かを紹介し、カジノとの複合化の様子、フロリダでカジノを運営するためには競馬・ドッグレース・ハイアライ（賭けを伴

競馬は」という、ガルフストリー
ム競馬場は以前と同様に繁盛し
ていて、大レースも実施しているし
併設のカジノ・ショッピングモール
も繁盛している。かつての「ホールダ
ー競馬場は「ガルフストリーム・ウ
エスト」と名前を変えたところフロ
リダ以外での認知度が上がり、ネ
ット投票の販売額なども増加した

かもしだ。
ただそれでも気になるのが、ファンの平均年齢の高さだ。日本では競輪場の平均年齢が高いが、ボンバノ競馬場の客層はそれ以上といふか、90%以上がシニア層である。それを見ているとハーネスレースの将来がかなり心配になつてくる。競馬場は売り上げを増やすた

前、この連載の競馬はというと、ガルフストリーム

かもしだい。